



「司令官挨拶」

自衛艦隊司令官

海将 杉本 正彦



横須賀水交会の皆様には、横須賀地区の部隊や機関をはじめとする海上自衛隊の諸活動に対して平素から暖かいご支援を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、我が国は輸入の99%以上を船舶輸送に依存していることから、海上交通の保護は我が国の生存と繁栄に直結する死活的な問題であります。一方、国外に視点を転ず

れば、今日の国際社会には依然として不確実・不安定な要素が益々顕著化してきており、我が国のみで独立と平和を維持することは、極めて困難なものとなっております。

このような情勢の下、本年3月14日には、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処のため、海上における警備行動に基づき護衛艦部隊2隻を派遣し、7月22日までに計41回、121隻の日本関係船舶の護衛任務を完遂しました。また、本年5月28日には、航空隊初の海外実任務として哨戒機2機をジブチに派遣し、不審船舶等の早期探知に努めるとともに、関係各国と緊密に連携してこれらに対処するなど、引き続き、海上における安全と秩序の維持に努力を傾注しているところです。更に、本年7月24日からは、新たな海賊対処法により、全ての船舶が保護対象となり、武器使用基準

発行 平成21年11月11日
編集 横須賀水交会事務局

も緩和されて、より適切かつ効果的に海賊対処ができるようになりました。

一方、平成13年以降、テロ対策特別措置法に基づくインド洋での給油支援も継続中であり、一旦中断したものの、補給支援特別措置法に基づく各国艦艇への補給支援活動も本年10月7日現在、128回を数え、各国から多大な評価を受けています。その他にも、本年4月に生起した北朝鮮のミサイル発射に際しては、自衛隊法に基づく弾道ミサイル破壊措置命令を受け、所要の部隊を派出して事案に適切に対処しました。

このように、海上自衛隊は国民の生命や財産を保護すべく日夜各種任務にまい進している一方で、護衛艦「しらね」の火災事案や護衛艦「あたご」の衝突事案をはじめ、忘れぬ事故に目を背けることなく本年を「改革元年」と位置付け、その歴史に新たな1ページを刻むべく日々の職務に取り組んでいます。

《横須賀水交会主要行事予定》

来年3月までの主要行事予定は、次のとおりです。多くの会員の参加をお願いします。

1 幹事会

- (1) 期日 12月10日(木)
 - ・ 横病長講話 13:15 ~ 14:00
 - ・ 幹事会 14:10 ~ 17:00
- (2) 場所 2術校大講堂
- (3) 会議後、懇親会

2 合同賀詞交歓会

- (1) 期日 1月9日(土)
 - 13:30 ~ 15:30
- (2) 場所 横須賀商工会議所
- (3) 会費 4千円(女性2千円)

そのような中で私は、「精強即応」「統合運用及び日米共同の深化」「抜本的改革の推進」を基本方針として、隊員一人一人を牽引していきます。

かつて、福沢諭吉は、「世の中で一番貴いことは、人のために奉仕して、決して恩に着せないことである。」と述べています。我々自衛官は、軍隊 (Service) というより、奉仕 (Service) という基本認識の下、事に臨んでは危険を顧みず、我々の雇用者である国民のために

これからも日夜修練に励んでいきます。そして、連綿と受け継ぐ海軍の良き伝統を胸に刻みつつ、将来を見据えた明確なビジョンをもって、自衛艦隊、ひいては海上自衛隊の任務即応能力の向上に努めていききたいと考えています。

最後に、横須賀水交会の皆様には、横須賀地区の部隊や機関をはじめ、海上自衛隊に対して変わらぬご支援のほど、今後ともよろしくお願いいたします。そして、横須賀水交会の皆様の益々のご健勝とご多幸並びに横須賀水交会の更なるご発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。

「政権交代」

横須賀市議会議員

幹事 木下 憲司

民主党による新政権について、少し意見を述べてみたいと思います。



8月30日(日)に実施された第45回総選挙は、選挙区、比例区ともに民主党が自民党を圧倒しました。(自民119、公明21、民主308、その他32、合計480議席)

そして9月16日(水)に召集された特別国会で、民主党代表の鳩山由紀夫氏が首相指名選挙で第93代総理大臣に選出されました。ここに、戦後政治を主導してきた自民党政治は終焉を迎え、民主党政権が成立しました。

小選挙区制による二大政党制は、もとより政権交代を可能とすることを前提とした制度ですから、民意を受けて政権交代はあり得ることです。

しかし、政権が交代しても、国政として、変わって良いものと、変わってはならないものがあると思います。

安全保障、国防は国家成立の基本であること、そして外交などは国益の追求を第一義とすることから、変わってはならないものの最たるものであると思います。

民主党政権が標榜する、以下のような基本政策の変更は、わが国の将

来を不安定化し、国益を損ねた結果、国家の成立基盤そのものが崩壊する予兆を感じます。

○日米安保―①日米安保の再定義
②米軍再編への対応③地位協定の見直し④非核三原則の法制化

○同盟関係と国際的安全保障枠組み―①インド洋における補給支援活動の中止②東アジア共同体構想③北東アジア非核地帯構想

一方、国民の幸福と繁栄を目標とする、社会保障や経済制度は、その時々々の社会情勢に対応して、変化して良いものだと思います。特に、少子高齢化、人口減少が進行するわが国における、年金、医療、雇用などの社会保障政策、そして世界規模での対応が求められる環境対策、経済政策などは時代の要請に合わせて修正する必要があると思います。

しかしそれとて、財源の再配分次第で、その政策の軽重は決まるわけで、財源が保障されない限り、その政策は画餅でしかありません。

新政権は三党(民主、社民、国民新)連立政権のため、必ずしもすべての政策軸が一致しているとは思えません。また、民主党自体も、そ

の内部は右から左まで幅広い思想を持った人たちの集団です。新政権は政権公約(マニフェスト)で掲げた政策の実現を追求することでしょうが、安全保障と財源確保の難問が壁となり、政策に混乱が生じるこ

恒例の夏期防衛講座開催

演題「日米関係と日本の安全保障」

日本プロ野球コミッションナー

加藤良三氏

横須賀地区防衛諸団体共催による合同夏期防衛講座が8月26日(水)午後、講師に前駐米大使で現在日本プロフェッショナル野球組織コミッションナーの加藤良三氏をお迎えし、記念艦「三笠」大講堂で開催された。

本講座は毎年横須賀地区防衛関係11団体が共同で開催しているが、今年も横須賀水交会が主幹事とし

て計画、準備、運営にあたった。

当日は、政権交代が予想された衆議院選挙の4日前であり、重要な争点である日米関係及び防衛政策に関連する



講演であったことから、講演への期待が高まる中で、防衛諸団体の会員、副市長・市議等一般来賓及び自衛艦隊司令官、横須賀地方総監等横須賀在所属・海・空自衛隊の指揮官など約220名に及ぶ多数の参加者があった。

講演会は定刻の15時30分から土井幹事の司会により、共催11団体代表の紹介、小山防衛協会会長の挨拶、長崎横須賀水交会長による講師の紹介に引き続き、加藤講師による「日米関係と日本の安全保障」と題して、約1時間半の講演が行なわれた。

講師は、昭和40年外務省に入省、

昨年5月に駐米大使で退官されるまでの四十数年間、本省、在外大使館等で勤務された。特に、米国には概ね15年半と長きにわたり赴任され、最後の駐米大使は戦後最長の6年半にわたり、日米関係の発展に大きく貢献された。講演では、講師の豊富な経験に基づく外交現場における生の声を聞くことができ、日米外交の一面を理解することができた。

講演は、はじめに、帰国してからの日本の感想として、
①日本人同士の連帯感、思いやりが弱くなっており、マスコミの影響により他人を非難する人が多くなっている。②情報の扱いがぞんざいで精細さが欠けており、国益のために使わず、私益に切り売りしている。などの指摘があった。



また、国際貢献に関して、同盟国などへの思いやりが欠け、結果とし

て、ノーリスク・ハイリターンへの傾向が強く、日本人の命に関する限り、国の政策・意思によって命を奪うことがあつてはならないという、信仰に近い何かがある。このため、今後国際貢献の拡充、尊敬を得られる地位につくためには、リスクのない国際貢献はないことから、リスク管理に万全を尽くし、補償等のシステムを作っておくなどの思考の成熟が必要になると指摘された。

主題の日米同盟については、世界でも不思議な同盟であると述べられた。通常のコア同盟では相互防衛が核で揺らぐことはないが、日米同盟では、集団的自衛権の問題など、相互防衛が不透明であり、このため、日本は相互防衛以外の国際問題・課題にアメリカに協力し、同じ方向性を出すことで配慮する構図となっている。しかし、反米的な人、マスメディア等はこの努力も対米追従とみなし、アメリカとの同盟により安全を確保しながら、同盟とは逆なことを発言している。また、左翼または一部のメディアも含めて、海外での実力行動を許さないなど、自衛隊の活動に制約を課してきた。彼ら

は、日本人は切れたら何をするか判らないとか、外国で軍事力を使用するほど成熟した民主主義を持つていないなどと、シンポジウム等で外に向かって発表をするなど、自分の国にとってこんな失礼な話はない。と述べた後、ほとんどの国が日本に対してもっと大きな役割を期待しており、素地は十分にあると話された。

次に米国の特徴については、朝河貫一著作「日本の禍機」を引用し、①欧州、日本などと異なり、歴史が浅く、語り継ぐべき神話の無い国であり、現実の価値で問題を解決する国であること、また、②2軸型国家であり、民主党、共和党の2つの軸がないと、安心、安全を感じない国であること、が述べられた。

最後に、中国台頭の状況にあつて、日本は、「日米関係の強化か」、「日米中の正三角形外交か」、「国連中心の全方位外交か」、核を含むあらゆるタブーを排除し、安全保障を考える必要があること、さらに、個人的には「日米同盟の強化」が日本にとってもっとも資する選択であること、また、日米には民主主義を共有

しており、米国にとつても日本は重要な国であると述べられた。

講演はユーモアにあふれ、経験と知識に裏づけされた豊富な話題で参考になることが多かった。

特に、我が国の国際貢献・援助はものづくりではなく、人づくりであり、世界各国から尊敬されていると述べられており、講師の指摘どおり、今後国際

貢献が拡大すると予想され、日本は国内法など準備を着実にこなす必要があると感

じた。

講演終了後、一般来賓及び自衛艦隊司令官、横須賀地方総監はじめ各級指揮官、先任伍長などの参加を得て、三笠後甲板において納涼懇親会を開催した。会員相互また現役自衛官との懇談は弾み、時間を忘れるほどの盛会であった。



(岩永幹事 記)

(会員投稿)

「入院の記」

会員 佐野 恭子



7月末、慶應大学付属病院に入院した。右下の顎下腺炎と奥歯の虫歯が原因だった。

6月から右でものをかむと痛みがあり7月中旬には風が当たっても痛くなった。かかりつけの歯科医に行きレントゲンを2種類、右下7番奥歯と、貫頭と言う顎全体を撮って全く異常はないと言われた。これで手遅れとなった。7月20日の海の記念日3連休には顎が腫れて痛み、熱が出て食事は摂れない。何処に行ったらいいか解らないまま1日2キロの氷を当てて寝ていた。たまたまネルソン協会の宮崎富哉先生に「歯が痛くて」と他用のFAXに書いたところ「良い歯科医を紹介する。病状を事前にFAXしておきなさい」連休明け早朝、神田の黒田昌彦歯科医院の前で待った。先生は慶応病院の口腔外科の後輩に紹介

状を書いて下さり「すぐさま行きなさい」と背を押してくれた。午後1時ごろ診察の番が来て顎下腺炎と虫歯という診断。この日は抗生剤を点滴して帰宅、翌日からベッドに空気が出てようやく入院が許可された。今回この投稿をした理由は「もし病を得たら、遠慮なく入院を考えたい」と申し上げたい。入院は、とにかく治療が進む、主婦が終日寝て居られる、家族も楽。それと信頼している、かかりつけ医でも見落とされることがある、そんな時は、ぜひとも誰かに相談をかけてほしいと思う。

さて、入院。朝9時半に登院、私は待合室で苦しくて横になり1時間ほどで車いすです病室に入った。黙って我慢していたら病室が空くのは午後3時になると言われた。病院により違うが例えば関東労災は病衣の貸与がある。1日100円でグレーのズボンと上衣を貸してくれる。心臓カテーテルの時、私は素裸にそれをまとった。帰宅後、自分で下着を洗濯する体力が残っていないか心もなかったためだ。慶応は衣類の貸与もなくビニールマットの

上に手ぬぐいほどの薄いシーツ1枚で寝る。朝、ひどい寝汗にぐっしよりとなる。私は「何でも屋さんのおねーさま」(大昔の言葉で申せば雑役婦という実力派)に「タオルケットは1人1枚でしょうか」と聞いた。彼女はにっこりして「貸さない、ということはお座いませぬのよ」と気持ちよくもう1枚貸してくれ、それを敷いた。「大きなバスタオルを持ってきてシーツに、冷房の風よけに、肩にかけて使うと良いのよ」とも教えてくれた。お隣は検査入院の方で私に話しかけたい様子だったが、そっけない返事しかしなかった。終日眠るための入院だ。幸い退院の日が同じで当日朝食からお話を伺った。もし最初から話し相手をしていたら、終日不規則に話しかけられ私には大きな負担になったと思う。入院最初の夜、ベッドに座って点滴を入れながら大樹が風にあおられているのを見た。自分の体力をぐいぐい取り戻していく実感は何にも増して嬉しかった。・・・など、書いたことは読者諸兄・諸姉には百も御承知だと思ふ。けれども、読者の70代、80代の先輩方は特に、「足る

を知る」独立自尊、辛抱強い方々でもある。退院後のヘルパーさんやデイサービスのような支援も、ぜひとも受けてほしくて書いた。ご自身だけでなく、ご家族もお楽になると思われたら、病院・地域、ぜひ他者の手助けを取り入れてほしい。それは決して「辛抱する」というご姿勢と矛盾しないと、私は思う。

9月、治療にあたられた皆のお心のこもった力添えを得て予定通りスイスに旅した。スイスは観光のプラカ、老いた私にはとても安心なのだ。他に売物のない国の観光に懸ける執念が好きだ。我らが日露戦争を戦っていた時期、彼らはユングフラウに直通する高度3000mでトンネルを掘っていた。現在そのトンネルは1人15000円の料金を取っている(スイスパスがあると半値)かつて「血を輸出している」と言われた傭兵の仕事が唯一現金収入であったこの国はただの兵ではなく工兵として付加価値をつけた。この国の土木工学には感動する。フルカ峠を例にとれば標高差1000mほどを一気にへアピンカーブで降下する。ここを晴れた日にバイ

クが大群で飛ばす(ヘルメットを脱ぐと大半は白髪頭)。日本人も巻き込まれたオーストリアのトンネル火災を知っているので氷河を見るために30分以上トンネルの電車で勾配45%を上っていく時、スイス以外は怖いと思う。「赤き屋根の一つまとまる村のありミュンヒに立ちて風の冷たき」(ミュンヒ山頂から)。また、3000mほど登るゴンドラに車いす・乳母車・松葉づえの方々が当然のように乗ってこられる。

『幼きを抱いて手を引く若き母登山靴かるし半ズボンにて』

何処にも清潔なトイレが十分にある。今回グリーンデルワールドという田舎で自炊して暮らした。レンタカーが1日8000円・鍋釜食器付きの1部屋11000円。タオル交換やゴミの始末は幾らでも頼める。台所とお風呂に十分なお湯が出て、気密性が良く、温かくて静か。隣室のバイク乗り夫妻と挨拶しながらアイガー北壁の見えるベランダでご飯にした。

『アイガーの山肌張り付く白き雪』
朝、アイガーに7時から陽がさし

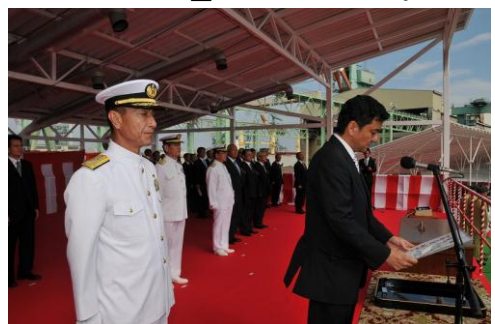
て7時半、8時とぐんぐん日の射す所が移って行く。つまりこの巨大な山を載せたまま、地球が自転しているのだ。こういうホテルをシャレールといい木造4階で一番上にオーナーが住んでいた。彼の手は私のかかとほどに堅くトランクを軽々上げてくれる。私が貴国の皆兵制度に・・・と聞くと大変誇らしげに「この国は20歳に3カ月の軍事訓練をうけたのち35歳まですべての男は10年に3週間の訓練を受ける。僕らはもつと後まで受けた。今も時々腕が落ちないように射撃訓練をする。寝室に5丁のライフルと2丁のピストル、ショットガンを持って寝る。グリーンデルワールドは行き止まりの地形だから非常に治安が良く、犯罪はほとんど無く・・・ごく稀だよ。」

『東山魁夷の心 今知りぬ 確かに湖 彼の色して』

命名・進水式に参加

18年度計画で建造中のヘリコプター搭載護衛艦の命名・進水式が8月21日、アイ・エイチ・アイ マリ

ンユナイテッド横浜工場で松岡横総監執行のもと、行われた。岸信夫防衛大臣政務官による「いせ」の命名、支綱切断、進水が行われた。



ドック進水であり、くす球、5色のテープ、花火、鳩の群舞など巨艦の進水に相応しい式典であった。横須賀水交會長崎会長はじめ10名余が参加した。一般観覧席には3000人余が集まり進水を祝った。

(本多副会長 記)

補給艦「ときわ」帰国・出迎え

補給支援特措法に基づき、インド洋における補給活動に従事していた補給艦「ときわ」(艦長高森 安生2佐、乗員約百四十人)は、任務を終了し、9月2日横須賀に入港した。

横須賀地方総監松岡海將主權の入港行事は、杉本自衛艦隊司令官以下各級指揮官参列のほか、佐藤参議院議員、吉田横須賀市長はじめ地元各界の代表、横須賀水交會など防衛諸団体の代表等が参加し、自衛艦旗小旗、水交會旗などを掲げ、盛大な出迎えが行われた。

3月16



日横須賀を出港し、5か月余に渡る長期行動、気候風土の全く違う厳しい環境における任務行動に従事され、誠にお疲れ様でした。ありがとうございます。

た。短い時間かと思いますが、ゆっくり休養されてください。国益を守り、国際的な責務を果たした艦長はじめ乗組員各位に対し深甚の感謝を捧げます。

(本多副会長 記)

「たかなみ」ソマリア沖へ

第3次海賊対処水上部隊 出港、見送り

海賊対処法に基づき、ソマリア沖・アデン湾において、船舶の護衛、海賊対処に任ずる水上部隊及び航空部隊が派遣されているが、この度、

第2次隊、第2護衛隊司令指揮の「はるさめ」及び「あまぎり」と交代するため、第4護衛隊司令 中畑康樹1佐を指揮官に「たかなみ」(横須賀、艦長 澤口和彦2佐、乗組員約190人)と「はまぎり」(大湊)の2隻が派遣されることとなり、

10月13日、両艦は横須賀を出港した。

松岡 横須賀 地方総監執行



の出港行事は、榛葉賀津也防衛副大臣訓示、杉本自衛艦隊司令官訓示、第4護衛隊司令あいさつにつづき、

花束贈呈等盛大な行事が行われた。船主協会、海上保安庁関係者、各級指揮官、隊員、家族、横須賀水交會などの防衛団体、地元関係者など多数の見送りのなか、国旗、自衛艦旗、水交會旗、各団体の激励幕などによる、心のこもった行事が行われた。

本行事の前、士官室において、水交會からの激励品をたかなみ艦長へ贈呈した。

なお、海賊対処航空部隊第1次隊(P-3C、2機)は厚木に帰国し、12日帰国式が行われた。

第2次隊は那覇から5日、出国した。現地において護衛された船舶から、感謝されていることが伝えられ、立派な成果を挙げられています。はるか遠いソマリア沖で、厳しい環境、不自由な海外での活動には頭が下がります。



海洋使用の自由のため、海上交通の安全のため、ひいては国益のため長期間にわたる任務行動をする部下がります。

海洋使用の自由のため、海上交通の安全のため、ひいては国益のため長期間にわたる任務行動をする部下がります。

隊に対し、深甚の敬意を払うものがあります。(本多副会長 記)

カード同好会10周年記念大会開催

横須賀水交會カード同好会は、平成11年10月20日に産声をあげ、本年10周年を迎えました。これもひとえに歴代横須賀水交會会長及び各幹事のご支援並びに同好会会員皆様のご協力の賜物と感謝しております。カード同好会会員は現在21名であり、毎月の同好会を楽しんでいます。

これを

記念して

10月21日、

次のとお

り記念大

会を開催

しました。

第1部

記念大会

は横須賀

総合福祉



会館に於いて、午前10時から昼休みを挟んで午後4時までカード同好会の会員に加え、横須賀水交會信

兼常務幹事の参加を得て、総勢18名で実施しました。6時間に及ぶ長丁場での疲れもありましたが、勝負は大いに盛り上がりました。スラムコールも連発されたいへん素晴らしいプレーが展開されました。また一方では、「ワンハート」「ツーハート」「うぐん フォワハート」とコールしダウンを帰すなどおおらかなプレーも散見され、和やかな中でプレーを楽しみました。

結果は優勝福田氏得点43点、第2位大月氏得点38点、第3位海野氏得点34点でした。参加を頂いた信兼幹事の成績は、退職以後初めてのプレーとのことでしたが、なかなかのものであり、目的が同好会活動の視察ということもあつてか第4位とやや遠慮気味でした。

本記念大会の開催に関して、長崎会長、初代世話人の齋藤氏及び会員の佐々木氏並びに急な用事のため欠席された土井幹事長から多大なるご祝儀等をいただきました。紙面を借りて御礼申し上げます。

第2部祝賀小宴は、場所を市内の小料理屋に移し、17時から開催しました。

ここには、横須賀水交会本多副会長、土井理事長も多忙の中駆けつけていただきました。宴は時間とともに盛り上がりました。成績発表、表彰式、そして村上会



員の音頭で乾杯の後、勝者も敗者もカードの話題などで盛り上がり、時の経つのも忘れて、10周年の祝賀と今後の発展について語りあいました。

カードは若年士官の頃に先輩から指導を受けて憶える場合が殆どではないかと思えます。その時の艦長や科長の厳しさがまず思い出されて参加することに躊躇される人も多いのではないかと思います。しかし、会員の先輩方は、多分前からそうであったと思いますがセントルマンであり、優しい方ばかりです。従って何方でも気軽に参加していただきますようお願いいたします。

(岩岡幹事 記)

(部隊研修)
弾道ミサイル防衛の核
「こんごう」での体験航海

10月18日(日)に平成21年度横須賀水交会部隊研修を実施した。今年度の部隊研修は、観艦式のために横浜港に回航する護衛艦「こんごう」の体験航海として実施し、129名が参加した。

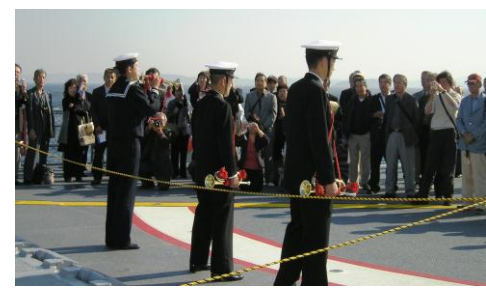
JR横須賀線運転見合わせの影響で参加者の集合完了が遅れるトラブルがあつたが、1230から横監厚生センター談話室で、長崎会長の挨拶、担当幹事からの体験航海の概要の説明、注意事項の示達等を行った後、Y・1岸壁に移動し、1300から乗艦を開始した。



部隊研修は隊員の激励も兼ねており、会員の乗艦に先立ち乗艦した

長崎会長から艦長(鍋田智雄1佐)に激励品を贈呈した。

1330に横須賀港を出港し、港外で127ミリ速射砲及びCIWSの操法展示、ラッパ吹奏展示があり、その後8グループに分かれて艦内を見学しつつ横浜に向かった。



ラッパ吹奏展示では入隊後1年の1等海士が会員のリクエストに応じて立派に吹奏したのには感心した。参加者の1割が80歳以上の会員であり、艦内見学では艦橋へのラッタルの昇降が心配されたが、杞憂に終わり、高い艦橋からの眺めを楽しんでいた。艦内見学終了後は、開放された士官室で休憩を兼ねて歓談する姿も見受けられた。多くの参加者にとって護衛艦で横浜港大栈橋に入港するのは初めての経験であり、ベイブリッジの下を通過す

る際には橋げたとマストがぶつかりそうに見え、その間隔を盛んに話題にしていた。観光客が盛んに手を振る中、1600大棧橋に接岸した。



案内や警戒員の配置、休憩場所の用意等、年配者に対する至れり尽くせりの配慮がされており、乗組員の態度も凛々しく立派であり、大変気持ちの良い体験航海であった。参加者は大満足して退艦した。



退艦後そのまま徒歩でホテル横浜ガーデンに移動し、こんごう艦長、副長、船務長、先任伍長の参加を得て1700か

ら懇親会が行われた。

長崎会長の挨拶、艦長の挨拶に引き続き、埼玉県から参加した松村会員の音頭で乾杯し歓談に入った。航海中、艦橋への昇降等休みなく動き回ったせいか足が疲れて椅子に座って歓談する会員も見受けられたが、すばらしかった乗員等の対応に感謝しつつ楽しい時間を過ごした。

今回の体験航海は観艦式参加部隊の集結完了日前日という忙しい時期にも係らず関係各位のご尽力のお陰で実現したものであり、横須賀水交會對するご配慮に頭が下がる思いであった。海上自衛隊を支援する気持ちを更に強くした有意義な研修であった。
最後に、部隊研修実施に際し、ご尽力頂いたこんごう艦長をはじめ関係各位に深く感謝するとともに、今後ますますの御健闘をお祈りします。
(上田幹事 記)

秋の叙勲受章者

次の会員の方々が叙勲を受けられました。
(敬称略)

秋の叙勲

- 瑞宝小綬章 野尻 勝馬
- 〃 大熊 康之
- 〃 山口 聖誉
- 危険業務従事者叙勲
- 瑞宝単光章 菊地 佑

(土井幹事長 記)

訃報

本年7月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。
(敬称略)

- 芹澤 嘉幸 (海兵73) 7月29日
- 久保田泰正 (准尉講) 7月24日
- 桑島 清 (幹予41) 8月23日
- 石渡 精次 (幹予62) 8月26日
- 石川 竹二 (横鎮S1) 4月8日

(河村幹事 記)

新(編)入会員(七月〜九月)

次の方々が横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。
(敬称略)

- 氏野 良則(生徒17)
- 長尾 晴幸(幹侯31)
- 田村 博義(幹侯28)
- 増野

- 玉枝(事務官) 近藤 忠勝(有志)
- 吉田 武憲(有志)
- 土屋 強(幹侯28)
- 茨城 多鶴子(有志)
- 貝瀬 知春(有志)
- 草薙 トミ(有志)
- 片瀬 信郎(有志)
- 樽美 房子(有志)
- 中村 恵美子(有志)
- 中口 頌子(有志)
- 小松 美智子(有志)
- 鈴木 房子(有志)
- 田中 一江(有志)
- 永島 明美(有志)
- 山田 耕三(横教66)
- 飛田 明(横教53)
- 木村 哲雄(幹侯48)
- 入江 智一(幹予94)

(河村幹事 記)

編集後記

10月25日(日)、艦艇40隻、航空機約30機が参加して、21年度観艦式が菅副総理を観閲官として相模湾で実施された。曇り時々雨で、寒さが身に凍みる天気であったが、整齊堂々とした、一糸乱れぬ艦艇の運動は海上自衛隊の士気と技量の高さを内外に示す良い機会であったと思う。外国への派遣などにより、参加艦艇数の減少、訓練機会の減少など、海上自衛隊を取り巻く環境は厳しいが、どのような状況でも能力を発揮できる海上自衛隊に敬意を表したい。
(岩永幹事 記)